

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/1階)

事業所番号	2793000304		
法人名	株式会社 You I		
事業所名	グループホーム菅原		
所在地	大阪府大阪市東淀川区菅原町3丁目18-23		
自己評価作成日	令和4年2月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和4年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症を抱えながらも、ご本人なりに懸命に生きようとされている利用者様のあるがままを受け入れ、自由に、気ままに生活を維持できるよう努めています。日々の日課を押しつけることなく、その日その日のご本人本位の生活リズムに合わせて支援しています能力的に出来る事はドンドンとしていただき、したいけど能力的に難しい場合も最大限の支援をさせていただき、能力的に出来るがしたくないことを強制されない暮らしを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念「友愛精神をもって良質なサービスを追求めします。」を基に事業所独自の「私たちの宣言」・ご入居者一人ひとりの個別のご希望や困りごとに向き合いご入居者、ご家族とともに改善を図ります。等、5つの宣言文を作り、各ユニット出入り口や職員控室に掲示し、折に触れ話し合い実践に繋げている。フロアごとのミーティングが、毎月行われている。それを各フロアのリーダー・ケアマネジャー・管理者等が話し合い、まとめている。ケアに関する事、行事に関する事等、問題箇所を出し合って改善提案をするようにしている。一人暮らしだった利用者の想いや暮らし方の希望、意向等の把握のために、もと住んでいた処へ出向いて行って、近隣の方々に元気だった時の様子、趣味、仕事などを聞き出し、それに沿った支援をするようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念に紐づけされた「私たちの宣言」を作成し、職員には入職時と折に触れ実践している。	法人理念・共に喜び、共に悩み、共に考え、お互いを信頼し、友愛精神をもって良質なサービスを追求します。を基に事業所独自の「私たちの宣言」・ご入居者一人ひとりの個別のご希望や困りごとに向き合いご入居者、ご家族とともに改善を図ります。等、5つの宣言文を作り、各ユニット出入り口や職員控室に掲示し、折に触れ話し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、感染症の予防のために、地域のイベントや行事への参加は出来ていない。市報や新聞等で地域の様子を知る様にしている	コロナ禍以前は、散歩に出て地域の方々と挨拶を交わしたり保育園児の訪問を受けたり、地域の行事に参加するなど、地域の一員として日常的に交流をしていた。現在は健康のため事業所周りの散歩はするが、感染症予防のため、挨拶まではしていない。しかし、近隣の理美容室へは、利用者全員が訪問し理美容して貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての偏見をなくすよう、認知症や介護でお困りの方の相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度、家族、地域包括、住民会等に参加いただき、グループホームの活動や状況について報告していた。 現在、感染症予防のため書面による報告のみ行っている	運営推進会議はコロナ禍のため、書面により開催している。利用者の状況・ヒヤリハット事故報告件数・感染症発生状況・行事及び参加者・事業所の課題等を運営委員に報告し意見を求めている。「コロナ禍でも、利用者本人とズームを利用しての会話が出来たら？」の意見が出ているので今後活用したい。結果は家族全員に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	重大な事故の報告や、利用者様、家族様などの対応について分からない事は相談をしている。	区役所の生活支援課等担当窓口へは、折に触れ訪問しケアサービスの取り組みについて報告したり相談をしている。また市役所福祉局へは、改正された介護保険の解釈について問い合わせをするなどしながら、積極的に協力関係を築くよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体的拘束適正化のための指針」やマニュアルを作成し、身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3月に1回開催している。	身体拘束等適正化のための指針を作成し、3ヶ月に一度委員会を開催している。委員会では議事録を作成し、職員全員に会議内容を確認、周知徹底を図っている。年2回身体拘束をしないケアの実践についての研修を行い、理解を図っている。各ユニットの出入り口、玄関等は安全のため施錠されているが、利用者の様子を見て散歩に出掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一回で会議を実施し、適正な対応をするように周知を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない方には成年後見制度を説明しご利用いただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約行為については書面を利用し説明と、疑問点があればその都度対応しています。 医療との契約などは、家族様と病院で話し合っていたり、病院、訪問看護も家族様が選択できるように配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来訪時に要望などお聞きしている。又、年に一度、御家族に無記名でのアンケートを実施し、意見や要望を確認し、運営に反映させている	利用者とは日々の会話を通して、利用者家族とはコロナ禍以前は、運営推進会議や来訪時に意見要望を聞く機会を設けていた。現在は、1年に1度のアンケート、電話や書面を通して聞き出している。「コロナ禍の今、利用者本人とズームを利用しての会話が出来たら？」の意見が出て検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日カンファレンスを行い、考え方や、今後について話す場をもっている。 フロア会議を実施しているが、コロナウイルスがあり全体での会議は延期しています。	フロアごとのミーティングが、毎月行われている。それを各フロアのリーダー・ケアマネジャー管理者等が話し合い、まとめている。ケアに関する事、行事に関する事等、問題箇所を出し合って改善提案をするようにしている。改善提案は各フロアのリーダーが報告し、周知するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績によっては、給料を上げるなど行っている。また、有休についても積極的に使用できるような環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTの実施 認知症実践者研修参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響でなくなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の実態調査や入所時のアセスメントを行い、本人の意向や困りごとを確認し、安心して生活できるような関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初のご相談時から耳を傾けている。コロナウイルスで不安になられている家族様には、電話やドア越しの面会など最大限の配慮はしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、必要とする支援を見極め、自分の事業所以外の介護サービスやその他の資源も視野に入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護の場」ではなく「生活の場」を重視し関わっているためか、かなりその人らしい「発言」が見受けられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各々の家族関係の実情に配慮した改善を試みている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で馴染みの所などに 行けなくなっている。	コロナ禍以前は、家族の協力を得て利用者が昔住んでいた家へ帰ったり、家族の墓参りや法事に出席していた。馴染みの宗教仲間が訪ねてきたりもしていた。今でも電話の取次ぎや、手紙・ハガキの代筆は職員がしている。また、近隣にある理美容室へも利用者全員が訪問し、店と馴染みの関係になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や茶話会、レクリエーション等で集まる際、感染予防の為に間隔をあけている。利用者同士がコミュニケーションをとれる様、職員が間に入り良好な関係が作れるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の施設など家族様と一緒に探し、その後の状態なども連絡して確認している。 退去後も関りのある病院などに転居される等、ご本人が安心出来るように相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時やケアプラン作成時に本人や家族の意向を確認しそれに沿った支援が出来る様努めている。 本人の意向の確認が難しい場合でも、本人本意になるよう努めている	元々一人暮らしだった利用者などにも思いや暮らし方の希望、意向等の把握のために、もと住んでいた処へ出向いて行って、元気だった時の様子、趣味、仕事などを聞き出し、それに沿った支援をするようにしている。毎日のかわりの中で、本人の表情を見ながら本人本位で支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を重視し、床に布団で寝ておられた方の部屋からはベッドを撤去する等の対応をしている。 起床時間や就寝時間も、以前のような生活をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事や排せつ、入浴等生活の状態観察と記録を行っている。スタッフ間で情報を共有し、把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズを施設内で完結するのではなく、家族様にも参加していただき、実現できる方法で作成しています。	毎月1回モニタリングとアセスメントを行い、短期6ヶ月・長期12ヶ月の介護計画を作成している。状況・状態が変わった時は、家族にその都度電話連絡をして相談し要望を聞いた上で担当者会議で検討し、介護計画を見直し利用者・家族の了承を得て再交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、ケアチェック表、5分カンファレンスなどを利用して情報の共有とモニタリングに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族様や、身寄りがない方には、決まっているサービス外の提供も実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりとして美容室に行っている。その他はコロナウイルスの影響でできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週1回の訪問診療。契約時に確認をおこない文書として残している。	入居時に話し合い、決めている。1名の利用者以外は、協力医を主治医としている。内科の訪問診療は月2回・歯科・眼科の訪問診療も希望者は受診している。診療状況や薬の変更時には、家族に電話で確認している。今までのかかりつけ医には、基本家族の付き添いとしているが、職員が付き添うこともある。週1回看護師が訪問して利用者の健康管理を行い、適切な医療の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の健康管理や、体調不良があれば看護師に連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携医療機関との関係は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い方では、見学の時にターミナルの話はしています。グループホームの設備や出来る範囲など隠すことなくお伝えしています。	契約時に、指針を基にして事業所のできる事、出来ないこと等対応を説明している。利用者の体調の変化時には主治医より家族に状態を説明して意向を確認して関係者と連携して対応する用意をしている。職員はマニュアルや資料で勉強して看取りの体制を整えている。開所4年目で看取りの事例はなく対応の利用者はいない。	事業所では利用者の希望する最後までここで過ごして頂きたいと、看取りの体制を整えている。家族が終末期を希望する場合、医師の説明のもと家族の同意の確認書の書類を準備することを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	システムは構築しているが、実践力はまだ身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との話し合いはしている。 何かあった時は自治会長さんと連携して互いに助け合うようにしています。	年2回の訓練を予定し7月に実施した。2月に自治会長・向かいのマンション住民と話し合い参加の確認を得て、準備をしていたが、コロナ感染状況で実施出来なくなり、消防署と相談している。マニュアル・ハザードマップ・連絡網の準備をして近隣在住職員に非常時参集の体制としている。BCP(緊急時にも事業を途切れずに継続する)研修に参加して計画書作成の準備をしている。水・おかゆ・カレー・ガスコンロ・ランタンの非常備品を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重しプライバシーの確保をしています。また、研修等を実施し職員全員で取り組んでいます。	年2回のプライバシー・接遇の研修を実施し、プライバシーに配慮、排泄や入浴時の声掛け、入室時にノックし入室をしている。利用者の人格を尊重した言葉遣いや、入居時には利用者の納得の元に、必ず体験入居して納得を得て入居すると、利用者の人格を尊重した対応をしている。個人情報の書類は施錠したロッカーに保管して管理者が管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が言葉では十分伝えることが困難な場面において表情や全身状況から感情の表出が出来るよう支援します。日々の中で表現される言葉だけではなく本質をキャッチできるように本人の希望や好みを把握します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の動きや希望に合わせて適切な関わり方をし一日の過ごし方を柔軟にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性や希望に寄り添い、ヘアスタイルや衣服を選んで頂けるよう支援します。好みの化粧品も使っていただけるよう支援します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には野菜の皮むきや根取り、調理や盛り付けなどを一緒にコミュニケーションをとりながら行っています。また、お盆の片付けや食器洗いの手伝い、お盆拭きなどもして頂いています。	昼食・夕食は業者よりチルド食品を利用し、事業所で湯煎し汁物を作り、朝食は事業所で用意している。利用者は汁物の材料の皮むき等を職員と一緒に作っている。月に1度の手作りの日を決め利用者の好みを聞いて、さんまを焼いたり、またおやつ作りも月1回ケーキやポテト・ぜんざいを作っている。テイクアウトを利用して、回転ずしで好みのお寿司を注文して楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分、おやつ摂取状況などを記録し、安定的に摂取できているか確認し、継続的に摂取量の低下が続く場合は、捕食を試みたり、医師に相談し指示をうけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて見守りや介助を行っています。また訪問歯科と連携し、一人ひとりにあわせた口腔ケアの指導をうけています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力やパターンを把握し、定期的にトイレの声掛け、誘導を行っています。また排泄動作も、ご自身で出来ることは継続して行ってもらい、維持できるよう支援しています。	日中は布パンツ・リハパンツの利用者は声掛けをして誘導しトイレでの排泄をしている。オムツ利用者が1名いる。夜間はパターンを把握して安眠優先でパット交換や、見回り声掛けをしてトイレ誘導している。夜間のみポータブルを使っている利用者もいる。オムツ利用から職員の誘導や気長に見守り支援により布パン使用になった利用者が数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを毎朝の朝食メニューに組み込み便通を促しています。また定期的な水分補給や体操なども行い、できるだけ自然排便が促されるよう取り組みを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴日や時間は決まっていますが、希望がある場合は柔軟に対応できるよう努めています。	入浴は基本週2回利用者の体調や希望を取り入れ午前・午後に入浴している。嫌がる利用者には時間を変えたり人を代え清拭やシャワーに変えて柔軟に対応している。同性介助の希望にも対応している。ゆず湯・しょうぶ湯・バラなどの入浴剤を使い楽しんで入浴出来る工夫をしている。好みのシャンプーを使っている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事への参加や活動、レクリエーションを行い、夜間はゆっくりと安眠していただけるよう努めています。また体調や状況にあわせてお昼寝などもして頂いています。寝具なども定期的に交換し気持ちよく睡眠がとれるよう環境整備にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の定期薬等の薬情は常に新しいものを、各フロアにファイリングされており、職員は常に確認できるようにしています。また、変更時は連絡ノートや申し送りでも情報共有し、服用後の状態変化について記録し職員間で共有しながら確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく一人ひとりが得意な部分で家事などの役割を持っていただけるよう支援しています。またお好きな事を日々の会話や様子から把握し、レクリエーションに活かしたり、行事開催などで楽しみのある生活になるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつも希望通りにはいかないが、散歩などではできるだけ行くようにしている。コロナウイルスの影響で買い物などは行けなくなっています。	車椅子の人も一緒に、毎日少しの時間でも近くの公園に散歩に出かけ外気に触れている。馴染みの美容院に出かけたり、取り壊される実家の家を見に行った。車窓から桜見物したり、城北公園に菖蒲を見に出かけている。利用者の海が見たいとの要望で甲子園浜に海を見に出かけるなど、利用者の要望に答えた外出の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失を覚悟で手持ちをされている方あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望がある場合は、かけて頂いたり、ご家族から電話があればゆっくりと会話して頂けるように環境を整えています。またお手やハガキなどが届いた時はお渡しし、必要に応じて読み上げるなど支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房や空気清浄機、加湿器などを利用して快適に過ごせるよう空気調整を行っています。壁には季節の写真や行事写真、一緒に作った制作物などを定期的に飾りつけています。	リビングはこじんまりとして絨毯を敷きこたつを置いて寛げるスペースを設けている。壁には、毎月利用者の作品を貼り今月はお雛様で季節を感じる工夫をしている。空調に配慮し定期的に換気を、しウイルス除去機を置き毎日職員が清掃して清潔にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは椅子の配置を検討して自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にお客様のお気に入りの物や使い慣れた物を持ってきていただき、心地よく過ごして頂ける様にしている。	居室入り口には、表札を掛けカーテン・電動ベッド・エアコン・クローゼットが用意されている。利用者は、テレビ・電子レンジ・仏壇等を持ち込んでいる。ぬいぐるみや化粧品・新聞・趣味の編み物を持ち込み、また家族や孫の写真を貼りその人らしい部屋作りをしている。清掃は職員がしており、出来る利用者はと共に整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	髭剃りや整髪など一人ひとりの自立支援に努めている		